

学校だより 令和4年度 1月号

NO.9



のびる ほどっ子!

令和5年1月11日
横浜市立保土ケ谷小学校
学校長 小川 克之



ほっとな未来へ 3C!

感謝の心をもって

校長 小川 克之

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、保護者や地域の皆様から温かいご理解とご協力をいただくことで、新型コロナウイルス感染症への対応をしながら、教育活動に取り組むことができました。また150周年行事も無事に終えることができました。感謝申し上げます。おかげさまで本校の子どもたちも、様々な制約の中においても、穏やかに伸び伸びと成長しております。今年も、子どもたち一人ひとりが安全にそして健康に学校生活を送ることができるよう教職員一同努めてまいります。変わらぬご支援をお願いいたします。

さて、冬休み明けの3か月、後期の後半は1年のまとめの時期です。現学年で身に付けるべき学力をしっかりと身に付け、次の学年へと進級しなければなりません。4月になって今まで学んだことがリセットされ、また最初からということがないよう、学びを定着する必要があります。また学力以外にも、その学年にふさわしいリーダーシップや思いやりといった心や態度、行動があります。そのような人としての力（人間力）も身に付けなければいけないと思います。そのため気持ちを新たに、教職員が一丸となって目の前の子どもたちに向き合っていくことの大切さを感じています。特にこの3か月は、一日が早く感じられ、あっという間に終わってしまう印象があります。それだけに、毎日を大切に過ごしてほしいと思っています。

残り少ない後期後半の3か月・・・4月からは新たな学年となり、クラス替えもあります。また6年生は中学校へと進みます。ぜひ一人ひとりの子どもたちが「感謝」の気持ちをもって生活してほしいと思っています。人は「もうすでにたくさんのもをいただいている」ということに本当に気付くと「申し訳ない」という気持ちになります。「感じて謝る」という気付きと悟りのことを「感謝」と言うそうです。（もちろん諸説あります）また自分の身の回りのことはすべて「当たり前ではない」「めったにないことなんだ」と気付かせることが感謝の心へとつながっていくことと思っています。

○してもらったことに対して「ありがとう」

○寄り添ってくれて「ありがとう」

○助けてくれて「ありがとう」

いろいろな場面で「ありがとう」という会話のキャッチボールが増えていくことを願っています。

保土ケ谷小学校151年目のスタートに当たり、今年も子どもたち、保護者や地域の皆様にとって素晴らしい年になりますようにお祈り申し上げます。